

編集後記

▼新潟日報九月一日付10面「日報を読んで」の欄で石崎幸三氏（長岡技術科学大学教授）が戦争に関する八月の日報記事を振り返りつつ「戦争の悲劇を伝えるのは『戦争を二度と起こさせない』ために重要なのは『戦争を』と同盟国の米國に無駄な戦争をさせないことも日本人の義務です。（米國は）日本の援助がなければ戦争のできない國になっています」と適確な指摘をされています。

▼今回の特集「新潟県の平和と子育て」は新潟県の現実をしつかりと見据えながら、子どもたちの未来に戦争の影をさすものを許さないという県民各層の声をあつめたものです。

▼座談会は従軍慰安婦問題、戦争責任と歪んだ歴史の見方の問題、弱まる平和教育と君が代、日の丸問題等々、実にさまざまな話題にふれつつ、わが子への平和教育は共同の子育ての中でと提起しています。この問題に関しての新潟県の学校教育の質が問われています。▼江端氏は厳しい職場の中から知り得た新潟

の空の現実を私たちにみせてくれました。「新潟の空に平和を」と声をあげるのは私たちの番です。

▼嶋田氏の報告をみると戦争準備は「戦争反対の県民世論」を目覚めさせないよう忍び足できているようです。日米の軍事演習が日本本土と日本近海で同時平行的になされている事実をマスコミが適確に県民に知らせていないこともわかりました。

▼当研究所初代事務局佐藤賢氏、県在住者初のチョモランマ登頂の快挙。労山メンバーとして二〇数年間、こつこつと高山をのぼる力をつけてきたお話もまた聞きたいものです。▼渡辺護先生の素敵な着想ではじまった子どもたちの米づくり。生きて働く教材にふれた臨場感あふれる子どもたちの作業風景です。

子どもたちが「こころ豊かに育つ」ことを次々と魔法使いのようにあみだすこんな先生がたくさんいたら学校はよみがえるでしょう。▼八木論文は韓国で「気高い平民」を育てる目的でつくられた小さな高校の紹介です。

統廃合でマンモス化してゆく日本の学校を地域の中から再検討しなくてはと思いましたが、文中の三輪氏の提起も重要だと思えました。

▼尾花氏の論文の前段で長らく軍事支配下にあった韓国の教育事情がみえてきました。今、教育制度を整えつつある韓国では真に市民的で国際性をそなえた教育が課題のようです。▼日本の「学校教育」の質が国際的批判にさらされています。『教育課程審議会答申』を検討する学習会が市民の手で各地で開られるとよいなと思えました。

にいがたの教育情報 No.55

1998年9月10日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 長崎 明

〒951 新潟市東中通1-86 山崎ビル

電話・FAX (025) 228-2924

振替口座・00640-0-12332

印刷所・中央印刷さあびす

本誌内容の無断転載を禁じます。